

FCアクセルJr.'09

上級生が下級生の試合で審判を務める取り組みを通じて、子どもたちの挑戦と成長を促進。小学生自らがルールや責任を学び、審判への理解とリスペクトを深めている。下級生にも「自分もできる」という意識が広がり、選手・指導者・保護者が一体となって審判員を育てる環境づくりにつながっている。

取り組み内容

実施期間：2021年～現在

実施場所：東京拘置所、足立区立弘道小学校

取組内容：

「小学生審判員のすゝめ」

—下級生の試合で、上級生が審判を務める光景—

当方主催の交流戦・大会において、その対象学年の上級生が審判を務めることを推奨しています。もちろん、審判を強制することはないので、全員が行っているわけではありません。

2026年7月の時点では、3年生以上の各学年において、3～4名の子が審判を務めてくれています。

子供たちは、大人がやることを無意識のうちに「自分（子供）にはできないこと…」と決めつけます。でも、自分と同じ年くらいの子供のやることには、「自分にもできるかも！」と思うものです。上級生たちを見て、下級生たちは当然のように「来年は審判をやる」と思っているようです。もちろん、私は強制しません。

私は以前から、「子供たちは何でもできる」と公言して憚らなかったのですが、そう言いながらも心のどこかで「でも、これ以上は無理だね…」と彼らの限界を勝手に決めつけ、線を引いていました。でも、今はこう思います…「子供たちは、本当に何でもできる！」「“できない”のではなく、“やらせていない”だけ！」「子供たちを信じて、見守るのが大人の役目！」

小学生に審判を務めさせることに対し、露骨に嫌な顔をする関係者もいるのが現状です。が、審判員を育てるのは、指導者、選手、保護者…サッカーを取り巻く全ての人々です。彼らの挑戦を、みんなで応援できる環境にしましょう！

